

---

# IS 一騎士と魔王一

村正

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

IS―騎士と魔王―

### 【Nコード】

N7520X

### 【作者名】

村正

### 【あらすじ】

女にしか使うことのないISを動かしてしまった、織斑―夏と双子の弟の一樹イツキの織斑兄弟。世界初の男性操縦者となり、IS学園に入学することになった織斑兄弟に待っているものは……。

## プロローグ（前書き）

今更ですが書きたい衝動にかられ、書き始めました。  
何とぞよろしくお願いします。

## プロローグ

「おい、一夏」

俺は今、目の前にいる兄を全力で睨んでいる最中だ。そうでもしておかないと俺の気が済まない。

本当はボコボコにしてやりたいけどな。

「……………」

「おい、一夏。聞いてんのか？」

当の一夏は、俺の方を振り向こうとはしない。

俺と目を合わせたら負けとか思ってたんじゃないやねえだろうな。

「だ、大丈夫だ。俺に任せろ！」

「何が任せろだ！ テメエに任せたら、こうやって現在進行中で迷ってんだろっが！」

俺と一夏は私立藍越学園の受験のため多目的ホールに来てるんだが、さつきも行った通り絶賛迷っている。

まあ、初めて来たから道が分からないというのは当たり前だけど、こつも綺麗に迷うとはな。

人に聞こうにも、辺りには誰もいねえし。どうしたもんか。

「えーと……………あれ？ これ、どうやって二階に行くんだ？」

「ちよつと待て！ 今、聞き捨てならないこと聞いたぞ！ 今のは完全に迷っている、って認めたようなもんだろ！」

ツッコミを入れても、一夏の野郎はスルー！

はっ倒してもいいよな。

「ええい、次に見つけたドアを開けるぞ、俺は。それでだいたい正解なんだ」

「は？」

とうとう血迷ったらしい。完全にパニックってやがる。

このままだと俺達は受験できなくて、藍越学園には不合格ってことになりそうだ。

そうなった時、こいつを慰めるのは骨が折れそうだ。

「……んなわけあるか。それで当たりだったら、テメエのことを心の底から尊敬してやる」

「よし、言っただな。約束だぞ」

「おう、約束だ」

そんなことを話して歩いているとドアを発見。

さっきの宣言通り一夏は、本当にそのドアを開けた。

あんなことになるんだったら、この時意地でもこのバカを止めときゃよかった。いや、マジで。

ま、後付けでしかねえんだがよ。

「こんな感じかなあ？」

タイピングを止めてディスプレイを眺めながら、私は首を傾げる。

配分は問題ないと思うんだけど……どうなんだろう。何か違和感がある気がしてならない。

特にこのシステムが。

やっぱり、これを入れたのが間違いだったかな？ でもこれを搭載して、初めて動く機体だし。

「うーん……この子は自分で完成させたかったんだけど、しょうがないか。お兄ちゃんに聞いてみよう」と

そう思って部屋から出た時だった。

お兄ちゃんの部屋から、大きな物音が聞こえてきた。

「お兄ちゃん!？」

「おお！ 紬ちゃん、ナイスタイミングだね！ これこれ！ 束ちやんから聞いて、ボクでもビックリだよ！」

どうしたんだろ？ そう思って、お兄ちゃんの見えたディスプレイを覗いた。

そこに映っていたのは、幼なじみの似ていない双子だった。

「いつくんもくんもすごいね。流星は千冬ちゃんの弟、ってことなのかな？ 紬ちゃんも、そう思うよね？」

私は固まったまま動けなかった。

世界で初『IS』を動かしたとして幼なじみが、織斑一夏と弟の一樹が映っていたのだから。

「紬ちゃん、大丈夫？」

「え、あ、うん。大丈夫だよ」

完全に思考が止まってた。ホントこの家族は、いろいろとトンでもないなあ。

「それにしてもよかったね」

「何が？」

お兄ちゃんの言ってることが、一切わからない。

「また一樹さんと一緒の学校に通えるねえ」

「え？」

この時の私には、お兄ちゃんの言っていることが全く分からなかった。

だって来年度から私が通うことになるのは女子しかない、IS学園なんだから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7520x/>

---

IS - 騎士と魔王 -

2011年10月20日02時12分発行